

久留米工業大で折り紙を折るプロジェクトメンバーたち。手前は複雑系の作品

久留米市が、中国・合肥市との友好都市締結35周年を記念して派遣する訪問団に、久留米工業大(同市上津町)の学生が参加し、現地で折り紙の実演や展示をする。学生の派遣は初めてで、メンバーは「日本の文化を伝えたい」と意気込んでいる。

学生は、久工大の「折り紙プロジェクト」に参加する4年生3人と2年生1人。普段はペガサスやフクロウ、ゴジラなどを完成に数時間かかる「複雑系」と呼ばれる折り紙を作ったり、夏休みや冬休みに地元の小学生らを対象にした折り紙教室を開いている。

訪中は27〜30日。学生

久工大生 折り紙で交流



友好都市
35周年
中国・合肥に派遣へ

は28日午後、合肥市で催される地元政府関係者や学生らとの文化体験交流会で、ツルやウサギ、小さな箱など簡単な折り紙を美演し、希望者には折り方を教える。

リーダーの岡崎直企さん(23)は「折り紙は一枚の紙から何でも作り出せるのが魅力。しっかり美演し、日本を少しでも理

【中村清雅】